

令和7年12月19日

大阪府立農芸高等学校 令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録

参加者：農業大学校 根来様 (A)、同窓会会長 田中様 (B)、さつき野学園長 佐古田様 (C)

帝塚山学院大学大学院教授 大堀様 (D)、PTA 会長 石井様 (E)

本校校長、教頭、事務長、首席3名、生活指導部長、進路指導部長、保健部長、ハイテク農芸科長、食品加工科長、資源動物科長

欠席：美原区長 小川様、総務部長

1. 学校長挨拶

2. 学校運営協議会委員紹介

3. 協議

(1) 第1回授業アンケートの結果について (資料あり)

校長「年に二回、授業改善につなげるために実施をしている。質問項目は全部で9つある。①生徒の取り組みについて、②生徒の自己評価、③授業の進度や難易度について、④授業計画、⑤教材の活用、⑥生徒が積極的に参加できる工夫、⑦生徒たちの意見を取り入れているか、⑧興味関心をもつことができたか、⑨知識や技能が身についたか、としている。1～4で評価している。第2回目のアンケートも実施したが、現在集計中のため、今回は第1回の結果を見ていただきたい。経年変化についてご確認いただきたい。年々評価は上がってきている。3.4を超える評価は他校に比べ大変高いといえる。数学・英語を苦手とする傾向はあるが、3.0を超えている。地歴公民については3.6を超えており評価が高い。学年別の結果については、例年通り2年生が少し下がっている状況である。R5年度入学生からR7年度の入学生の経年変化については、振り返りや予習に関する数値が上がっている。タブレット等を活用していることで評価が上がったと考える。また、教員の多くがICTを活用しており、生徒の理解にもつながっていると思われる。この点については今後も続いていくと考えている。教科別経年変化について、数学や英語については、比較的低い傾向がある。中学一年生のころ、コロナの影響で授業のスタートが遅れた学年であるため、教えてもらわないと身につかない教科(英語や数学)については苦手意識があるのではないかと考えている。」

A「ICTの活用によって学びが深まっているといわれていたが、どのような取り組みをしているのか具体的に教えていただきたい」

鳥谷「教材をスライド等で作成し、教員で共有することができる。またタブレットを通じて生徒にも共有することができ、自分の進度に合わせて復習することができるようにしている。板書を撮影したものを共有することもできるため、欠席した生徒の学習の保障につながると考えている。」

D「なかなかICTを活用することが難しい中、活用されており、合理的配慮もされていることは素晴らしい。」

E「他校に比べ、本校はICT活用が進んでいると感じている。コロナの影響が大きいと感じる。生徒

にタブレットを配布するが、教員には割り当てがなかったため、一人一台端末を用意することができた。そのため、教員全体が活用に動き出したことがよかったと思う。」

(2) 令和7年度 学校経営計画について 各分掌からの報告

校長「学校経営計画にある学校運営協議会からの意見について、皆様にご意見を頂戴し、こちらに掲載させていただきたい。本年度の取り組み内容及び自己評価、重点目標、具体的な取組計画・内容、評価指標を掲載しているが、進捗状況を各分掌から報告をさせていただく。」

司会変更（校長→教頭）

樽井「情報部より。学校経営計画の中にある、ICTの更新に伴い、校内体制の確立・業務効率化を図るという点について説明させていただく。今年度よりMicrosoftを活用するようになった。保護者からの連絡をMicrosoft Formsを活用し、すぐに閲覧できるようにした。LGH指定を受けている。今年度最終年度となる。各学期1度、研究授業を実施した。また、最近生成AIの発達・普及がめざましく、教員間でも使用が可能になっている。生徒の活用も増加傾向にある。規制をかけても個人の端末で活用をすることが考えられるため、適切な使用を指導ができるよう、教員に向けて生成AIに関する研究会を行う予定である。

A「生成AIについてどのような課題があると考えられるか。生成AIも性能が上がってきている。本校の学生もよく生成AIが作成した文書を提出してくる。学生自らの意見を出させるためにどうしたらいいのかという課題があるが、高校ではいかがか。」

樽井「反省文を生成AIでつくってくる生徒がいた。生成AIが作成したものをそのまま添付するため、すぐわかってしまうが、生成AIを学びにどう活用していくかという視点で」

C「英語の授業で生成AIを使用する授業を実施している。（文部科学省からの指示）自分の書いた文書と生成AIが作成した英語を比較する授業を行っている。使い慣れてはいるが、どのようにプロンプトをかくのかということがポイントだと考える。自分のことばを失うことが考えられるので、そうならない学びにすることが必要だと感じる。本校はコパイロットを活用している。社会の授業で調べ学習をさせたが、嘘がたくさん並んでいた。その嘘を見抜くという授業も大切だと感じた。」

校長「生成AIもあるが、信頼性のなさがある。」

C「先生方に一度使ってもらったほうがリアルにわかると感じた。」

山本「生活指導部より。懲戒件数について今年度は9件11名。昨年度はこの時期で約20件であり、減少傾向にある。ただ、生徒間の問題が増えている。コミュニケーションがうまくとれず、自分たちで解決できず学校に相談する件が増加している。SNSでの問題もよくあがっている。遅刻数については昨年度2100回で、今年度は現状100件ほど減少している。コロナ禍の時期に比べると増加しているが今後も指導していく。」

鈴木「進路指導部より。生徒の進路保障に向けて、3カ年計画を立てている。3年生では各進路希望に向けて、LHRで分かれて指導を行った。今年度素地ができたため、今後、2年生・1年生へと広げていきたい。また、生徒の視野を広げるため、企業から説明をしていただいた。今後も早い段階から多くの企業があることを知ってもらう機会を増やしたい。本校生徒はどちらかというと、5教科の成績を活用するよりも、文章読解や自分の意見を文章で書ける力が必要だと考える。1年生にはデジタルドリルにログインさせ、自学自習ができる環境を整えている。」

A「企業の方にはどのような形でできているのか。」

鈴木「現在は木曜 6 限の L H R の時間に実施している。」

稲葉「保健部より。薬剤師の方に生徒向け（1.2 年生）の講演をしていただいた。違法薬物だけでなく、風邪薬等のオーバードーズについても説明していただいた。

生徒向けの A E D 講習と教員向けの A E D 講習を堺市消防局の方にしていただいた。とても説明がわかりやすく好評であった。（参考資料：新聞記事）

教頭「総務部長欠席のため代理で説明させていただく。（A 4 資料あり）毎年体験入学 2 回、学校説明会を 4 回実施している。その他中学校の教員向け学校説明会を実施。本校生徒の出身中学校の教員が来校され、本校での 3 年間の成長を喜んでいただいた。農芸祭の来場者数については保護者が増加傾向にある。その他資料参照。P T A の取組については、今年度より総務部長となった河合がともに取り組んでいる。」

C「教員向けの説明会について、実施された金曜の翌週月曜から 2 学期が始まるため、なかなか中学校教員が出られない状況なのかもしれない。申し訳ない。」

鳥谷「農場部より。今年度の取組内容については各科長より説明。資料参照。企業連携を実施している。詳細については配布資料参照。」

葉山「ハイテク農芸科より。植物の栽培を中心に行っている。退学する生徒も少なく、毎日登校している。進路も農業関係を希望する生徒が 2/3 を占める。高校卒業後、就農につくことが難しいのが現状である。そのため農業大学校をはじめ、国公立へ進学する生徒が多い。玄関前が変わった。生徒の学びと企業との連携によって完成した。小学生とともに米づくりの体験をサポートするなどよくがんばっている。」

中山「食品加工科より。四年制大学や食品関係の専門学校へ進学する生徒が多い。本校の前にあるラルチュさんとケーキのレシピ開発なども行っている。一年生の総合実習でミニプロジェクト学習を今年度から取り組んでいる。外部講師として辻調理専門学校の方に来ていただいた。本校の加工場は施設面の老朽化もあるが、講師の方に衛生面についてお話いただくことで、気を付けなければならない細かいことなどたくさんの学びがあった。」

瀧口「資源動物科より。動物の飼養管理、プロジェクト学習などに力をいれて取り組んでいる。指導と評価の一体化を目指している。資源動物科は 20 代が大変多く、過渡期に来ている。時代の変化に伴い、変えなければならないところは変えていき、教員が一丸となって構築している。設備の老朽化に伴い、設備の更新について文面で教育庁に伝えていっている。飼料代を含めた価格が高騰しているが、教育活動を充実させ売上も達成していけるよう取り組んでいる。教員が運営や教育のために必要な資格を取得できるようにしていきたい。」

A「農業大学校より報告。農芸高校出身の本校学生 2 年生 4 名が内定をもらっている。農機具メーカークボタ、校務員等。」

（3）令和 10 年度選抜 特色枠について

校長「本校の特色に合わせ、農業に興味関心をもつ生徒を 10 % 募集する。調査書の他に作文を実施。」

(4) その他報告

教頭「今年度はいじめ認定件数が10件あった。その中には、下足ロッカーに画鋲等が入れられる事案があった。また別の生徒のロッカーには腐敗物の入ったビニール袋が入れられていたという件もあった。全校集会やSCの方にも入っていただき助言をいただいた。友人関係を築くことが困難な生徒が増加傾向にある。人を許すことができるような教育が必要である。教育相談のさらなる充実を図っていく。また対策マニュアル等を検討中である。」

校長「子どものコミュニケーション力の低下もあるが、子離れできていない保護者が増加していると感じている。子どものいうことだけを鵜呑みにし、子どもと同じ感覚で来校してくることが多い。保護者と教員に向けたアンガーマネジメント研修を検討している。」

E「様々なことに取り組んでいてすごいと感じた。今年度農芸祭が雨天で、PTAのミネストローネが売れ残ったが売り上げは検討できた。社会見学も無事に終了した。アンガーマネジメントの研修はとても良いと感じた。」

D「保護者の皆様が育っておらず、保護者もどうしていいかわからず学校へ来ていて対応されていて大変だと感じた。」

C「小中一貫校だが、いじめの件はどこも同じだなと感じた。経験が大切だと強く感じる。小さい摩擦（任芸関係）を経験していない。こどもの中でもお金で解決することが増えている。大変な中で取り組みを行っている。本校生徒で興味のある生徒がいた際は、今後ともよろしくお願いいたします」

B「生成AIの利便性もあるが、リスクも多いと感じた。プロジェクト学習のプロセスの中でコミュニケーションをとりながら、力を身に付けてほしい。入学式や卒業式に参列するが、学校全体の式典であるのに、保護者は自身のお子さんにしか目がいていないという印象を受けた。保護者の方にも広い目でみてほしいと感じた。」

A「授業の再編についてとてもきになりました。一人の先生が多様なことを取り入れないといけないのではないか、どのような取り組みを具体的にされているのか教えていただきたい。公立大学との連携も伺ったが、推薦枠はないのか。貢献もたくさんしているのでぜひ推薦枠をもらってほしい。生徒のモチベーションもあがっていくと思う。動物の飼養管理ができる生徒が大学に行くことはとても大事だと感じる。」

4. その他

美原文化会館「アグリフェス」の案内

今後の予定

第3回 令和8年2月13日（金）15:00～17:00